

# 今年の夏は グリーンカーテンに 挑戦しませんか。

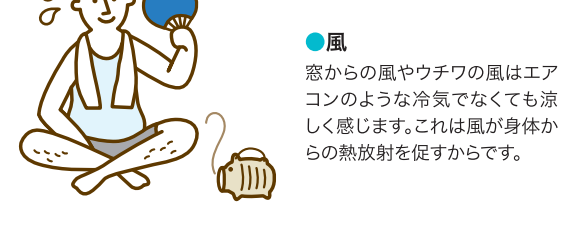
ゴールデンウィークを過ぎると気温も徐々に上昇し、思わずエアコンのスイッチをオン。確かにエアコンで室温をコントロールすれば快適だけど、頼り過ぎるのは健康面でも省エネ面でも気がなりますよね。もっと上手に季節とつきあう方法があれば…。そんな思いを持つ方も多いのではないでしょうか。そこでおすすめなのが、強い日射しを遮り、室内に日陰をつくり出してくれる「グリーンカーテン」です。エアコンに頼らない期間を増やすことができ、窓外に緑の眺めが生まれて目にも涼しいのが魅力。植物が生長していく様子を楽しむこともでき、種類によっては実を収穫できる飲み物もあります。今号では「グリーンカーテン」の魅力や育て方をご紹介しますので、ぜひ家族で挑戦してみてください。4月から5月にかけてがスタートの絶好機です。

**暑さ寒さを左右するのは、  
気温だけではありません。**

炎天下から日陰に入ると涼しく感じたり、ウチワをあおいで風を受けると暑さがやわらかく。そんな経験って、ありますよね。私たちは、暑さや寒さを気温だけで表現してしまいがちですが、周囲の環境によって感じ方は変わり、これを体感温度と言います。

そして、この体感温度を左右するのが「気温」「湿度」「放射熱」「風」の4つの要素です。日陰が涼しいのは「放射熱」を遮っているからで、ウチワの心地よさは「風」が身体からの熱放射を促進させるためなのです。室内の快適環境を調える場合も、この4つの要素を上手にコントロールすることがポイントになります。

## 体感温度を左右する4つの環境要素



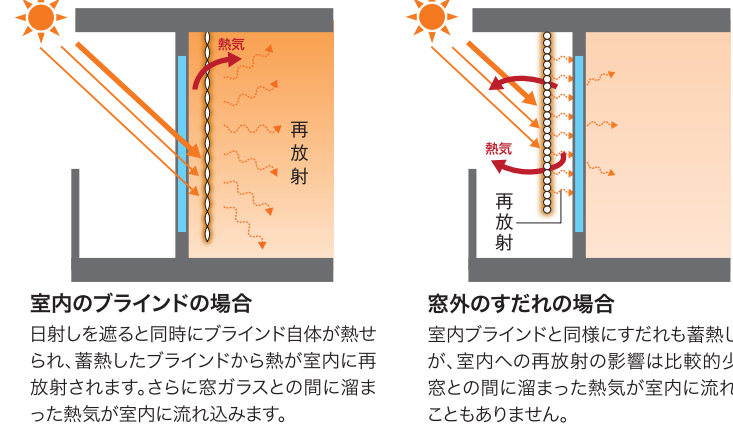
## 強い日射しを 室内に入れないことが、 涼しさの第一歩です。

夏の室内を涼しく保つには、強い日射しによる熱を遮断することが何より重要です。日射しを遮るにはカーテンやブラインドを閉めるのが一般的といえるでしょう。

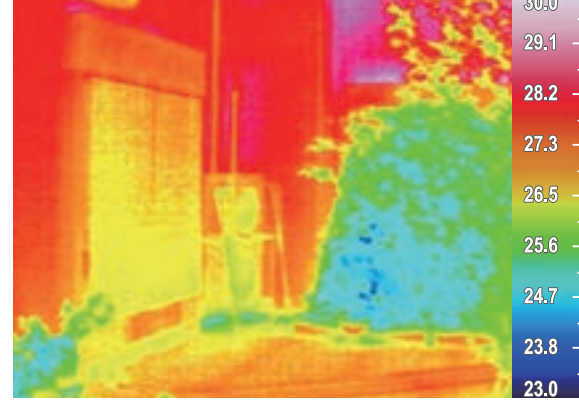
ただ、カーテンやブラインドは窓の内側での日射しカットになるため、窓との隙間にこもった熱気が室内に流れ込んでしまいます。さらにカーテンやブラインド自体が温められ、その熱が室内に放たれることで暑くなってしまう。

もちろん日除けを何も行わないより、カーテンやブラインドを閉めるだけでも室内の暑さを抑える効果は期待できますが、より有効なのは室内に日射しが入る前に窓の外側で遮ることです。具体的な方法としては、すだれなどを窓の前に設置して日射しをカットすることが考えられます。

## 窓の内側と外側での日射しカットの比較



## 赤外線カメラによるすだれと グリーンカーテンの表面温度の比較



すだれの表面温度が高温になっているのに対して、グリーンカーテンは周囲より温度が低くなっています。

**すだれよりも効果的で、楽しみの多いグリーンカーテン。**

すだれは確かに窓の外で日射しをカットするには有効です。ただ、室内の暑さをいっそう緩和するためには、あと2つの重要なポイントがあるのです。

ひとつ目のポイントは、日除けとなるすだれの表面温度です。すだれ自体が熱さを蓄えてしまうと、その熱が室内へと徐々に伝わって



しまいがちです。

そして、もうひとつのポイントとは、バルコニー床からの照り返しです。すだれは窓への日射は遮ってくれますが、バルコニー床には直射日光が当たり、その熱が反射してすだれや室内を熱してしまっのです。そんな2つのポイントをクリアするのが、グリーンカーテンです。グリーンカーテンは植物ならではの蒸散効果で表面温度が上がりにくく、さらに照り返しの原因となるバルコニー床自体にも緑陰をつくることができます。また、植物を育てる楽しみや実を収穫する喜び、室内からの涼しげな眺めや季節感のある暮らしなど、魅力が多いのもグリーンカーテンの特徴です。

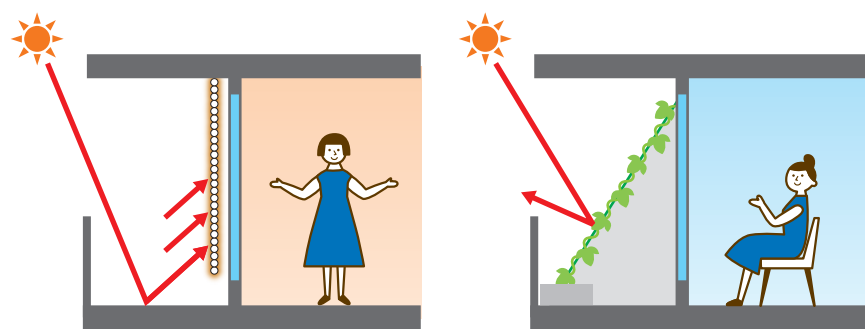
## マンションでグリーンカーテンに挑戦するなら。

室内を涼しくしてくれ、楽しみや魅力の多いグリーンカーテンを、マンションで実践するにはどのようなことが大切なのでしょう。そのポイントを具体的に紹介しましょう。

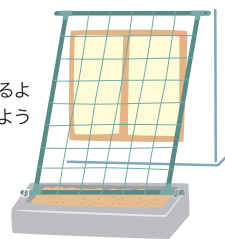
### 1 ネットの設置

マンションではネットを直接固定することが難しいケースがほとんどです。まずネット枠を組み立てて、ネット自体が自立するようにしましょう。ネット枠はホームセンターなどで入手できる鉄芯入りのポールを使用すると便利。窓よりひとまわり大きい寸法でポールを口の字型に組み立てた枠に、ネットを針金などで固定します。ネット枠の脚部を物干し用基礎ブロックなどでしっかりと支えてください。上部は固定せずに窓側に立てかけるようにします。外壁やバルコニーの床・天井に穴を開けたり、ビスを打つのは禁物です。絶対におやめください。

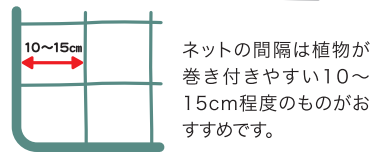
### ■すだれとグリーンカーテンの照り返し比較



すだれは窓に垂直に付けるので照り返しを受けやすい(左図)のに対して、グリーンカーテンはバルコニー床自体を緑陰で覆って照り返しの原因をなくします(右図)



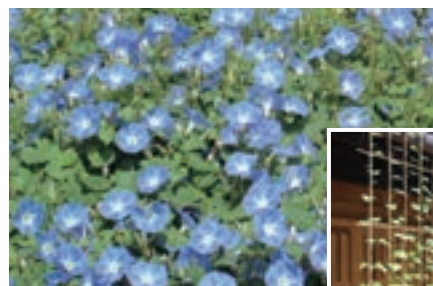
ネットが自立するように、枠を作らしましょう。



ネットの間隔は植物が巻き付きやすい10~15cm程度のもがおおすすめです。

### 2 植物の選定

グリーンカーテンにはツル性植物が適していますが、ナツツタなどの壁面に付着するタイプは避けましょう。花の美しさを求めるなら、アサガオや



アサガオ

比較的手軽に育てやすい品種です。上に伸びる性質が強いため、やや狭い間隔で植えます。



スイカズラ

初夏に白い花をつける観賞性の高い品種です。乾燥に弱いので、水やりに注意しましょう。



ゴーヤ

育てやすく葉も密に繁るのでグリーンカーテンに最適です。収穫を楽しめるのも魅力です。



ヘチマ

葉が大きく、隙間が空きやすい点に要注意。他の品種と組み合わせで植えるのが有効です。

スイカズラ、クレマチスなどを。実の収穫を期待するなら、ゴーヤやヘチマ、キュウリなど。家族で色々話し合ってから決めるのも楽しいものです。

### 3 苗の植付け

植付けにはプランターをいりますが、過湿にならないように鉢底石を敷いてから土を入れます。土は市販の園芸土を利用し、固形肥料や液体肥料などを

使って、やや肥料分を多めにしておきましょう。植物は種から植える方法もありますが、苗を利用するのがおすすです。できるだけ葉と葉の間隔が詰まっている苗を選ぶのがポイントです。



#### ① 苗を仮置きする

1mあたり2~3苗(日当たりが悪い場合は3~4苗)を目安に、ネットに対してポットが等間隔になるように仮置きします。



#### ② 苗を取り出す

苗の根元をつかんで、ポットの土をできるだけ崩さないように、苗をポットから取り出します。



#### ③ ルーピング根をほぐす

ポットから出した苗の根が底でグルグル巻いていたら(ルーピング)、その部分を切り取ります。



#### ④ 植え穴を掘る

苗のポットより浅めの穴を掘り(深くなりすぎないように注意)、植え穴に水を入れて湿らせます。



#### ⑤ 苗を植え付ける

苗を穴の中に置き、まわりの土で隙間を埋め、苗の土と周囲の土が密着するように強く押し込みます。



#### ⑥ 水を与える

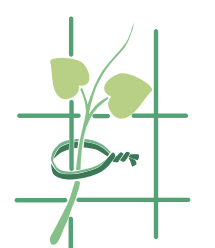
ジョウロのハス口を下にし、苗の周囲にまんべんなくたっぷりと水を与えます。

### 4 生長の管理

苗を植え付けた直後は1日2回、朝と夕方につぶりと水を与えます。苗一本あたり4~5リットルが目安です。気温の高い昼間の水やりは避けましょう。生長してきたら乾燥気味に育て、過湿に注意しましょう。土の表面を少し掘って、乾いているようなら水を与えます。ツルが伸びてきたら、剪定と誘引を行ないます。ツルの先端を剪定することで

分枝が促進されてネットの面を覆いやすくなります。誘引はツルがネット全体を覆うように行ないます。ネットから外へはみ出したツルはカットするか、強制的にネット側に誘引しましょう。

苗先を伸ばしたい方向に向けて、麻ひもなどで結ぶとイメージ通りに誘引しやすくなります。



夏場の夕方水やりでは、葉や株全体に水をかけるようにします。



カットしたツルをキッチンや洗面室などに生けると季節感が演出できます。



ネットから外に伸びたツルは、カットするかネット側に誘引します。

### 5 後片付け

秋になって、屋外が涼しくなってきたら、グリーンカーテンを片付けるタイミングです。ツルが枯れてしまうとちぎれやすくなり、ネットから取り外すのが難しくなります。

少しかわいそうですが、植物が元気なうちにネットから外すようにしましょう。下向きにツルを引っ張ると楽に外せます。

